

なお講演会の副題「日本の大学図書館との比較」については、講演ではあえてふれられず、出席者個々の判断で比較して欲しいということであった

が、質疑応答では、人材、サービス面でアメリカと日本でもっとも異なるのはレファレンスサービスの質と量であることが強調された。）

図書館職員長期研修参加記

医学図書館 原 裕 之

昭和44年（1969）に始まった長期研修に今回参加させていただきましたので、研修の様子を簡単に報告いたします。日程は、7月15日から8月2日までの3週間にわたり、受講生は北海道から鹿児島まで総勢42名でした。

前日午前10時過ぎのひかり号に乗り込み出発。東京駅に降り立った時、猛暑の関西に比べてやや涼しく感じました。筑波に着いたところが図書館情報大学への道を間違えてしまい道順を訪ね訪ねようやくの思いでたどり着きました。研修生の宿舎は、夏休み中の学生寮を一時借用とか、これは文部省の配慮です。居住の学生は抽選で長期研修生及び司書講習生用に明け渡すそうです。図書館情報大には当然、司書課程があり現職だけの司書講習を開催しています。

明けて研修初日、研修会場は図書館情報大唯一の冷房装置のある階段式講義室。冷房も人によりけりで、最初の頃冷房で体調を崩した人がいたようです。オリエンテーションで筑波の水は悪いので生水は飲まないようにとの注意があり、翌朝からお湯を沸かすのが日課になりました。

最初の講義は、大学行政の中の図書館運営に関するものでした。一般に、図書館員は、行政手腕に欠けていると言われていただけに興味深く拝聴しました。教授会を持たない図書館が力をもてないのは当然であり、図書館は無力の組織という考えを前提として、図書館員が実力を示し、大学という組織の中で理解を得るような努力が必要とのお話でした。

体育の実習は、去年まではソフトボールだったようですが、今年は体育館を使つてのバドミントンでした。職員との代表による試合中、けが人が

でたのは残念なことでした。けがをした人はその後ギブスを巻いて研修を最後まで終了したのには驚きました。

新しい大学図書館サービスのあり方に関する講義では、これからの図書館サービスを考える上で参考になるものでした。今後に求められる目に見えるサービスとは、遡及入力の実施によるOPACをはじめ、CD-ROMの利用やドキュメント・デリバリーサービスの展開などであり、情報のことは何でも応じることのできる図書館へと発展すべきだというのがその内容でした。

大学図書館の相互協力の講義では、いかなる図書館も一館では利用者の要求を満たせられない状況になってきて、その克服のために資源共有システムの構築が益々求められて来っており、現物貸借も含めた対応が求められているとのことでした。

東京工業大学では、雑誌の全文を光ディスクに保存して利用に供する実験を行っていました。ここでも、著作権の問題が大きな障害となっており、外国雑誌は1タイトルだけで著作権料を支払って行っているとのことでした。

学術情報センターが、筑波大学の一隅にこじんまりとあり、建物が余りにも予想とはかけ離れて貧弱なのは驚きました。また、以前採録編集に携わったことのある「経済文献季報」がデータベース化され国内文献に限ってとはいえ、「経済文献索引データベース」としてサービスが開始されるということで感慨深いものがありました。学情のILLシステムについては、来年の4月から本稼働とのことですが、私の館では相互貸借業務の一部をパソコン処理をしている関係もあって処理がなお複雑になるのではと不安を覚えました。

グループ討議では、主に情報提供サービスや学術情報システムのことが討議されました。目録の質のことや全点入力のことにも討議されましたが、京大における機械化の現状を十分把握していなかったため畿北からの参加者にフォローしていただくなど迷惑をかけてしまいました。

閉講式の後、来年の同窓会の担当を決めて3週

間の研修をようやく終了しました。研修よりもコミュニケーションで盛り上がった3週間だったかもしれませんが、今後の人的全国ネットワークの新たな展開を期して散会いたしました。

最後に、長期にわたる研修に快く送り出して下さった職場の皆様をはじめ関係者の方々にお礼を申し上げます。



目録システム（地域）講習会を開催

附属図書館では、学術情報センターとの共催で、9月30日（月）から10月4日（金）までの5日間、本館の地域共同利用室で、平成3年度目録システム講習会（地域講習会）を下記のとおり開催しました。

記

第1日目：目録システム概論、目録情報の基準Ⅰ
（学術情報センター）

第2日目：端末操作、端末操作実習、検索総論、
検索技法

第3日目：登録総論、登録実習（所蔵のみ、階層なし）

第4日目：登録実習（階層あり、物理単位、修正）
目録情報の基準Ⅱ（雑誌）、雑誌登録実習

第5日目：雑誌登録実習、レビュー、まとめ及び質疑

受講者：近畿北部地区の5大学から8名

以上



国立七大学附属図書館協議会等の開催

去る11月15日、本館大会議室において、文部省から鳴野学術情報課長、井上大学図書館係長並びに北大をはじめ七大学の附属図書館長等の出席を得て、標記協議会が開催され、「今後における大学図書館のあり方」など7つの諸問題について協

議されました。

また、前日の14日には、同七大学図書館事務部課長会議が開かれ、「完全週休2日制（週40時間勤務制）への対応について」など6つの協議題について情報交換が行われました。